

# ノーベル平和賞授賞式に参加して

原爆被害の実相と  
日本被団協の略史も



2024年10月12日付朝刊各紙一面トップ 各面に特集記事



爆風で首の飛んだ聖像  
長崎

2025年1月13日  
コミセン3F大会議室

日本被団協 代表理事  
愛媛県原爆被害者の会  
事務局長 松浦 秀人

1



広島生変図 : 平山郁夫 (1930年6月瀬戸内海の生口島で生誕、15歳で被爆、作画時49歳) 1710mm×3640mm 広島県立美術館

2

戦中は日本政府に、戦後は米占領軍に原爆報道は禁止され、原爆被害の実相は隠蔽され、被爆者の苦悩は広く知られなかった

← 空白の10年(後述)

# 戦後の被爆者の苦しみ

- ① 入退院の繰り返しや長期の体調不良(数年間の下痢)は、失業と貧困に直結
- ② 原爆**ブラブラ病**(常時、定期、不定期など各人ごとに多様)  
原因不明、検査数値も異常なく、家族にも理解されない苦しみ
- ③ 被爆知人の突然死による「死の恐怖」 子どもは20歳まで生きられないの噂も  
胎内被爆者連絡会で18歳まで広島・長崎で育った会員と私との違い
- ④ 結婚・就職等の差別、遺伝の不安(青年期の私の悩み)、子や孫の健康不安
- ⑤ 数年以降の**白血病**や**ガン**をはじめとする**全身症状**  
＝ならなくてもよい病気が発症し、回復すべきところが重症化＝**晩発性障害**
- ⑥ 生き残った者の「後ろめたさ」「罪の意識」や「生きる値打ちがあるか」の悩み
- ⑦ 原爆は「からだも、くらしも、こころも破壊」、戦後も苦しめ続ける非情



自宅の庭で晩年の母

同一条件の被爆でも  
個体差による違いも  
(放射線被害は**確率**  
の世界でもある)母は  
幸い**96歳の長寿**を得て、  
2010年8月永眠

原爆・放射線の恐ろしさは、**巨大な殺傷力・破壊力**にとどまらず  
戦後も数十年にわたり**身体を蝕み続け**、子や孫など**時空を超える被害**

## 空白の10年とは？

原因不明の病気に苦しむ被爆者を国は**放置し見殺し**＝手を差しのべていれば助かった命も

### 転機は1954年3月1日のビキニ事件

アメリカが広島原爆の1000倍の威力の水爆実験(キャッスルブラボー)、漁船など**延べ千隻の被害**



ビキニ事件の報道紙面



放射能を浴びた第5福龍丸・焼津港



汚染マグロの放射能量の測定



原水爆禁止の署名活動、熱烈に

## 被爆者運動の先駆者

18歳で被爆した久保仲子さん  
当時28歳の松山市臨時職員、  
藤木宏三委員長の勧めで第1回原  
水禁四国大会・世界大会に参加

## 被爆者団体の結成へ

1950年の国勢調査で、県内に  
被爆者2,600人の存在の情報

国立病院(堀之内)の協力で  
無料検診を実施し被爆者探し

- 1956.1.11 県原爆被害者の会創設  
↓
- 1956.4 四県連絡協議会
- 1956.5 全国組織結成の呼びかけ
- 1956.8 日本被団協の結成

「久保仲子さんの足跡」は、県原爆被害者の会の「被爆50年記念誌」から転載

## 久保仲子さんの足跡

- 1927・7・15 兵庫県生まれ、祖父母のいる松山で、東雲小・城北高等女  
学校に学ぶ。
- 1944 卒業生による「女子挺身隊」、呉海軍工廠に動員される。
- 1945・8・6 広島で被爆(18歳)。叔父即死、叔母12月死亡、焼け跡バラッ  
クの松山で母・姉と暮らす。
- 1954・4・29 四国平和大会(香川県琴平市)に参加
- 1955・8・5 第1回原水爆禁止四国大会(松山)に参加。
- “・8・8 第1回原水爆禁止世界大会(広島)に参加。
- 1955・9 愛媛県原爆被害者の会の結成運動開始。



- 1956・1・11 愛媛県原爆被害者の会結成。副会長。
- 1956・4 広島、長崎、愛媛、長野の4県で連絡協  
議会を結成。
- 1956・5・27 広島被爆者団体協議会結成に代表参加。
- 1956・5・27 4県の連絡協議会で日本原水爆被爆者連合  
(仮称)を8月に設立するよう申し合せる。
- 1956・8・9 第2回原水爆禁止世界大会(長崎)参加。
- 1956・8・10 長崎にて日本原水爆被害者団体協議会  
(日本被団協)結成。被団協代表理事(四  
国ブロック)。
- 1958・3 愛媛県原爆被害者の会会長に就任。
- 1964・7 愛媛原水協 代表委員。その後、逝去す  
るまで副理事長。
- 1974・4・14 愛媛県原爆死没者慰霊碑 石手川公園に  
建立。
- 1977・7・31 被爆の実相とその後遺・被爆者の実状に  
関する国際シンポジウム(国連NGO  
主催、広島)に参加。

1992年3月10日 病没56歳

## 噴出する原水爆禁止 を求める国民の声

ビキニ事件を機に原爆・放射能  
の恐ろしさが初めて国民の間に  
広がり、原水爆禁止の署名活動  
へ(署名は3000万筆を超えた)



## 原水爆禁止世界大会(第1回) 1955年8月6日 広島にて



## 日本被団協の結成 1956.8.10



原水禁運動に励まされた被爆者は、第2回原水禁世界大会(長崎)で全国組織の日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)を結成(1956年)。「自らを救うとともに人類の危機を救う(結成のよびかけ)」と宣言し、差別と偏見の根強い中で自ら立ち上がった被爆者の唯一の全国組織。多くの方々の共感を得て新しい法律と援護制度を実現し、国内外で核兵器の禁止と廃絶を訴え、2024年ノーベル平和賞を受賞した。

# 国内外で旺盛な語り部活動を開始

偏見と差別の中顔をさらし名を出し被爆の実相を語り始めた先人



長崎原爆青年乙女の会 結成25周年のつどい 1980.8.9. 於中華園

草創期の被爆者運動をけん引した方々。主として長崎の方  
前列右から横山、久保、山口、谷口の各氏(横山さん以外は故人)

撮影日は1980年8月9日、結成25周年とは1955年の結成を示す



第1回国連軍縮特別総会参加の日本被団協  
代表団(右から4人目は愛媛の故・久保仲子  
会長) 1978.05 NYの国連前



国連や各国政府  
要人に原爆被害  
を伝え核廃絶へ

ローマ法王に謁  
見する被爆者  
1982.8.25(右から3  
人目、横山照子さん=  
今回の授賞式に参加)

1956年前後(当時10~11歳)の写真類は持っていない  
7

核兵器禁止を訴え続け



国連総会で訴える山口仙二さん(1982年)



国連総会で訴える谷口稜暉さん(2015年)

山口さんも、谷  
口さんも、長崎  
の被爆者。  
谷口さんは、  
伊方原発訴訟  
の第4次原告

右、2015年  
NPT会議、  
車椅子の  
谷口さんも  
(最前列に私も)



「リメンバー・パールハーバー」というフレーズは、戦争の最初期の真珠湾で奇襲攻撃を受けたアメリカの政府や軍が、今次大戦中に国民鼓舞のために多用しましたが「復讐心による報復感情」をかき立てた、低劣なフレーズだと私は思います。

被爆者は、ノーモア広島、長崎、ノーモア・ヒバクシャと叫んで来ました。誰の頭上にも再び核兵器を炸裂させてはならないという先人のこの思いは、報復の連鎖＝悲劇の拡大を断ち切るという気高い倫理性・思想性に裏打ちされた訴えだと思えます。

# 歴史的な核兵器禁止条約の成立・発効

## 70～80年代の欧米で原水禁運動 空前の高揚

- ・米ソ冷戦時の中距離ミサイルの欧州配備が発端、欧米各国の各都市で数十万人規模の集会続々
- ・日本被団協も代表派遣、「わが街の配備反対」が本音で、当時は原水爆の禁止は夢・幻の状況

## 核兵器禁止条約の採択と発効

- ・2017年7月7日、賛成112反対1保留1の圧倒的多数(国連加盟国の3分の2)で採択、2021年1月22日発効。コロナ禍の延期後に、締約国会議は第1回を2022年6月に(83カ国参加)、第2回を2023年11月に(94カ国)で成功させた。←参加国数の増加は条約の実効性の高まりに直結＝国内法との違い
- ・NATO傘下のドイツ・オランダ・ベルギー・ノルウェーのオブ参加(米と軍事同盟のオーストラリアも)

## NPT(核不拡散条約)再検討会議とは

- ★ NPTとは米・英・仏・露・中の5カ国の核保有を認めそれ以外の保有禁止条約
- ★ 核保有国の核軍縮努力義務を規定、5年ごとに点検の再検討会議
- ★ 1970年発効(期限25年)、1995年に無条件・無期限延長(191カ国が参加)
- ★ 運営は満場一致制＝困難な運営で、2022年8月は決裂、次回は2026年に
- ★ 日本被団協は2005年から大型代表団、2020年はコロナ禍で大型派遣を断念



国連原爆展テーブルカット 2022.8.6  
被団協の役員3名と長崎・広島市長など

## ノーベル平和賞の授賞発表 2024.10.11



### 授賞の理由

- 核兵器のない世界実現への努力
- 二度と使われてはならないことを証言を通じて示す

会見での「ニホンヒダンキョウ」の発音は印象深い。

## 松浦個人の受賞発表時の想い

故人を含む有名無名の被爆者の、痛苦の体験に基づく国内外での被爆証言によって、核兵器使用への倫理的・道徳的な高い壁(ノーベル委員会の言う「核のタブー」)を築き、戦後79年間の核の不使用を実現し、ひいては核兵器禁止条約の採択・発効につながったとの認識にもとづく顕彰であり、その点では大変嬉しく有難い。

ただ、今般はウクライナやガザを背景に核兵器使用の現実的な危険性が高まっていることへの警鐘の意味が大きく、喜んでばかりはいられず、「嬉しさも中くらい」とメディアの取材に応え続けていた。

2017年の核兵器禁止条約の採択や2021年の条約発効に関連して受賞予測の報道が流れたが、その時期なら手放しの歓喜だったに違いない。と言うのも、核兵器禁止条約が、自分の生きている内に採択され発効することを想像出来なかったから。

# 授賞式・オスロへの道

ノーベル賞の授賞式は、創設者の**アルフレッド・ノーベル**の誕生日にちなんで**12月10日**に、平和賞だけはノルウェーの首都オスロで開催。12月8日の出発を控えて激励集会。

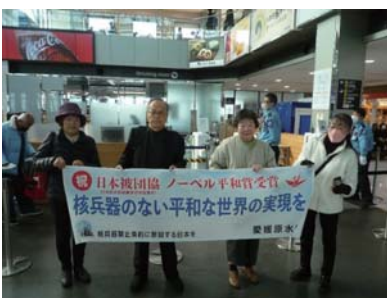


11月23日の「送る集い」 アイTVニュース画面より



昭文社「コトリップ」より転載

# オスロへ向けて出発



12月7日 松山から羽田へ：拙速な移動で見送りモレも



代表団は日本被団協の役職員18人をはじめブラジルと韓国の被爆者団体の代表、生協連やICAN等の友好団体・通訳など総勢38人。この日羽田を発ったのは28人。



12月8日 羽田の代表団(松浦の右隣は田中重光代表委員)



代表委員の田中熙巳(てるみ)さん 羽田で

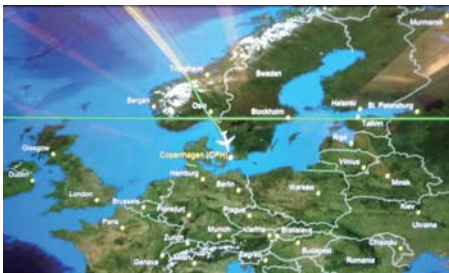


羽田空港の取材陣 2024.12.8 12

## 北極付近経由でオスロに向かう



オスロ着が  
遅い時刻で  
コペンハー  
ゲンで各自  
夕食手配。  
広島の中  
さんとパン  
購入:店員と  
記念撮影



8日9:55羽田発スカンジナビア航空。  
直行便は無くコペンハーゲン乗換え。  
オスロ上空を飛び越して行き、乗換  
え機で引き返すと知った:左下

コペンハーゲン空港内で、セブンイレ  
ブンを発見し驚く:右下  
出入国の審査はオスロでなく、コペン  
ハーゲンで。時差はマイナス8時間



13

## オスロ空港には雪、市内は雪無し



12月8日20時35分、  
所要18時間でオス  
ロ着。車椅子の長  
崎・横山照子さん  
とご一緒に。

右写真のとおり  
空港周辺は雪



左下は長旅を終え、スーツケ  
ースを引き取りホッとしている私

空港ではオスロの反核市民団  
体の方たちと先乗りしたICANの  
川崎哲さんが出迎えてくれたが  
その場を撮り損なった



車椅子は宮城の  
木村緋紗子さん。  
たまたま同じ便に  
乗り合わせた妻と  
3人で:娘が撮影。  
娘の手配で、本  
当にたまたま同じ  
便でした。

14



## 空港からホテルへ

ノーベル財団手配の**大型バス(写真)**で移動  
バスには日本大使館の職員や医師(**医務官**)などが同乗。右手の建物が**創業1874年のグランドホテル**。ホテルの**前は公園で観覧車や野外スケートリンク**も。

## 代表委員3氏はVIP待遇 白バイ先導警護で道路封鎖も



左写真は時と所が違うが夜のオスロ空港から白バイ先導、**3氏に各1台の大型車両を配しパトカー警護、我々と別の過密日程**



ホテルロビーで**韓国被爆者協会の会長やICANの川崎哲さん**から歓迎を受けた。

## オスロの2日目(12月9日)

代表委員**3氏**は、海外メディアの取材や授賞式のリハーサル他、分秒単位の**超過密**な日程。

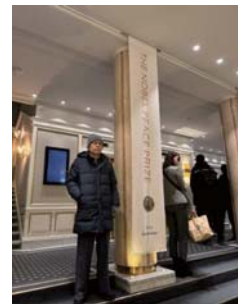
他方で、私たちはノーベル財団の写真撮影(3氏も合流)以外の公式行事なし。私は**ムンク美術館**を訪れることにした(**娘のスマホの案内**で)。



**ムンク美術館**:建物もユニーク  
白っぽい外壁を夕陽が赤く染めた



前頁の観覧車。日本被団協のシンボルマークの**折り鶴**は、帰国後に知った



ホテルの柱に祝意



16時前には夕焼け、**16時過ぎには暗闇に、日の出は9時頃**  
この日最高気温マイナス1度



ノーベル財団の「**平和センター**」  
今後**1年間**日本被団協の資料類が**展示される建物と私**



# いよいよ授賞式 12月10日



授賞式の会場・オスロ市庁舎へ向かう寸前の記念撮影  
メディアのカメラも幾つか、ロビーの慌たじさが伝わる



市庁舎は、特徴のある外観で一度見たら忘れられない、すぐ傍に港があった(注:この方角の景色は見てない)

写真は夕景だが授賞式は13時の開始



市庁舎で、クロークに外套を預けて進むと、会場の手前に飲み物と軽食が準備されていた、不慣れな私は少々驚いたが軽く飲食し、会場に向った



国王・皇太子夫妻の入場の合図、受賞団は左写真の左側最前部の囲われた箇所



## 授賞式の進行

上写真、前の4席、国王・皇太子夫妻の席。右上のトランペットの吹奏で入場

下写真は、上写真の正面側、壇上に代表委員ほか、委員長のスピーチ中。



ヨルゲン・バトネ・フリードネス委員長 私たちには、スピーチを同時通訳で会場には千人を超える人々が居る



左からフリースタイル委員長と3人の代表委員  
田中熙巳、田中重光、箕牧智之の3氏

右は、受賞演説  
をする田中熙巳  
(てるみ)さん、  
92歳と言う高齢  
にもかかわらず  
21分間、終始明  
晰な口調だった

伊方の第4次原告



左は受賞団席。  
赤い花は日本で  
見ない特大のア  
マリリス、前から  
2列目の右から  
3人目に私

右は、翌日の地  
元紙(TV画面の  
転載)



日本大使館の祝賀レセプション  
表題に「団体」欠落のご愛嬌も



松明パレードの先頭に騎兵を発見



パレードに手を振る代表委員3氏



松明パレードに  
同行ツアーの日  
本人も参加、  
「ノーモア広島、  
ノーモア長崎」  
が響き渡った

当日は見られなかつ  
たが、帰国後にオス  
ロ市民が多数と知り、  
感激した



メダルと賞状(翌11日、ホテル内)

## 晩さん会のエピソード

ドレスコード＝和服以外はブラックタイ  
19時から23時まで＝飲み物は24時まで可  
「貴重な食材の豪華な料理」との証言も  
給仕係の行動スタイルに惚れ惚れ



こんな報道もあったとは



メインテーブルは3代表委員を皇太子夫妻などが囲んだ

## 最終日も代表委員は超過密

オスロ最終日の11日も、3代表委員はストーン首相をはじめ国会議長など要人との面談が相次ぐ超過密日程



本頁のTV画像3枚は帰国後に入手

ノルウェー政府も核兵器禁止条約に不参加だが、首相から核廃絶に積極的な意欲を感じたとの3代表の感想



翌日から1年間、日本被団協の資料展示する平和セターのオープニング式典、3代表委員は壇上へ

オープニング式典で、駐ノルウェー日本大使の杉山明氏と親しく懇談するも中座し、オスロ大学へ

21

## 会場封鎖で遅れたオスロ大学

出迎いの日本人留学生との出会いが、3代表委員の退出時刻と重なり会場封鎖のため、30分遅延

## オスロ大学の若者に託す



学生360人に語りかけ  
右から愛知の金本さん、私、島根の本間さん(年齢順の並びで、話す順番もこれに同じ)



ともかく快調な語り  
終演後握手を多数求められ何度となく記念撮影もした



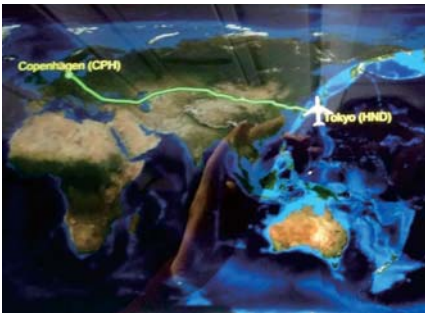
靴の写真は口頭説明

22

## さらばオスロ、帰国の途へ



12月12日早朝の午前5時ロビー集合、往路と同じくコペンハーゲン乗換えで羽田へ



帰路は、何故だか往路と違い大陸を横断所要15時間

離陸時の機内放送で受賞団搭乗の告知と平和賞受賞の祝辞があり乗客から拍手が起きた



13日午前8時前に羽田着、全員が無事故で帰国、羽田空港で解散

私は同日14時頃に松山空港に帰着し空港で共同インタビュー

12月19日県庁で中村知事に帰国の報告(右)。同日夕刻松山市役所に伺い野志市長に報告



## 被爆80年 核兵器廃絶に向かって

3月の核兵器禁止条約締約国会議にせめてオブ参加を地方議会の意見書採択など被爆80年にふさわしい取り組みを検討中、引き続きのご支援・ご協力を

23

## 私の証言ビデオの紹介

いつかの機会に、ご視聴ください。ご家族や友人・知人にもお勧めください。

国立広島原爆死没者追悼祈念館の証言ビデオ 松浦秀人(20分04秒)

[https://www.global-peace.go.jp/picture/pic\\_syousai.php?gbID=1449&dt=220619232150](https://www.global-peace.go.jp/picture/pic_syousai.php?gbID=1449&dt=220619232150)

証言ビデオ 被爆者の私からあなたへ

- ① 母の被爆体験 <https://youtu.be/kfPrsCGu9bY> (10分53秒)
- ② 胎内被爆者と知って <https://youtu.be/k4WWgarZFmQ> (5分53秒)
- ③ 不安をかかえながら <https://youtu.be/2Q98YekMCQw> (9分52秒)
- ④ 「ふたりで支え合って～20年目の婚姻届～」  
<https://youtu.be/CC8kClnRyII> (21分59秒)

24